

■ 期末考査に向けて



7月5日(火)から7月7日(木)まで1学期期末考査が実施されます。1週間ほど前になりましたが、準備は順調に進んでいますか? 特に指定校推薦や公募制推薦で大学進学を希望している人は少しでも評定平均値を上げようと意気込んで学習に取り掛かっていることと思います。進学・就職を問わず、1年生から3年生の1学期までの成績が志望校や志望企業に送られていくこととなりますので、3年生諸君は特に気を引き締めて今回の期末考査に臨んでほしいものです。

1、2年生の諸君も、いずれ評定平均値が気になって仕方がないという時期が来るものと思われます。そのときになって、「あのとき、しっかりと取り組んでいれば良かった。0.1足りなくて推薦の対象にならなかった・・・」などと後悔しなくて済むよう、きちんと準備して考査に臨んでください。特に1年生の諸君は、中間考査を受けてどのような形で定期考査が出題されるか分かったかと思えますので、その反省を活かしてください。

■ 推薦入試の基準について

5月26日(木)付でBLENDで連絡されていますが、「進路に関わる学校推薦等における基準」が示されています。推薦生徒の基準としましては、推薦委員会で協議のうえ、①本校生徒として、恥じない人格を備えていること。②すべての教科、科目の評定(仮評定)に『1』



を含まないこと。③3年間(または3年生1学期まで)の欠席が、原則として20日以内であること。④出願までの期間において、特別指導歴がないこと。ただし、校長訓告および生徒指導部長説諭については、会議にかけることとする。以上4点に基づいて選抜しますので、ご承知おきください。なお、特に部活動関係で、セレクション等を受験する場合には、必ず①~④の基準を満たしているか確認してください。基準を満たしていない場合には、セレクション等には参加できず、以後の推薦も認められません。

その他、出願人数に制限のある入試形態で受験を希望する場合は、推薦委員会前までに「推薦受験願」および「誓約書」を進路指導部まで提出することになっています。推薦委員会は数回実施されますが、先に行われる推薦委員会が優先されます(※1回目の推薦委員会は2学期はじめ頃に実施予定)。指定校推薦(※基本的に11月に実施されるケースが多いです)に第1志望としたい学校(大学等)がなく、総合型(※9月頃実施されるケースが多いです)を受験したいと考えている人は、特に注意してください。

■ 日本学生支援機構奨学金について



3年生の保護者の皆様にはすでに BLEND でお伝えしていますが、今年度の日本学生支援機構奨学金の予約採用の申込みは2回目（申込書類の校内受付期間：6月6日（月）～6月17日（金））か3回目（同：7月4日（月）～7月15日（金））での申込みとなりますので、期限厳守でお願いいたします。それぞれの学校での入力期間は、2回目が6月27日（月）～6月29日（水）、3回目が7月19日（火）～7月21日（木）となります。ご承知おきください。

提出書類について、給付型および貸与型の確認書は、学校名が「昌平高校」や「東日大昌平」など、「東日本国際大学附属昌平高等学校」と正式名称で書かれていないケースが毎年目立ちます。加えて、生徒記入欄、給付型の生計維持者記入欄はそれぞれ、生徒本人、お父様ご本人、お母様ご本人がそれぞれご自身でご記入いただかなければならないのですが、すべてお母様が記入してしまったり、住所が都道府県名から書かれていなかったりするケースも多く見られました。さらに、提出日や生年月日等、西暦年を書くように記載されているにもかかわらず、「令和〇年」や「平成〇〇年」などと書いて提出されるケースも見られます。それぞれ細かいようですが、日本学生支援機構の書類チェックは厳格ですので、ご理解いただければ幸いです。

なお、入力の際には予めお伝えしていますように、下書きをしておいていただかなければ、作業がスムーズに進みませんので記入しておいてください。具体的には、『申込みのてびき（青色の冊子）』のP.3～P.12（※特にP.6～P.11）です。よろしくお願いたします。入力してから1週間以内に「マイナンバー提出書」をお送りいただかなければなりませんので、くれぐれもお忘れなく。

現1・2年生で、3年生になってから日本学生支援機構奨学金・予約採用の希望者がいるものと思われませんが、基本的に評定平均値が3.5以上ないと給付型、貸与型の第一種奨学金の申込みはできませんので、そのつもりで学業に取り組んでください（※給付型については救済措置がありますが、それは3年生になってからお伝えします。今は評定平均値3.5以上を目指しましょう！）。

■ 進路指導室の資料を入れ替えました！

6月中旬に進路指導室の大学、短期大学、専門学校の資料（※パンフレット等）をすべて今年度のものに入れ替えましたので、参考にしてください。なお、就職関係の資料（※いわき市内の求人票はすべてプリントアウトします。その他の地区については、学校に送付されてきたものについては閲覧できるようにしますが、十分な数ではありませんので、学校のパソコンで探すことも可能です）については、7月1日以降に準備します。左側にも記しましたが、7月5日（火）から7月7日（木）まで期末考査があるため、それが終わってから夏休み前までに各自で閲覧するようにしてください。



■ 1年生対象にリクルート進路講演会を実施

5月26日（木）の5校時の時間を利用して、リクルートの「進路講演会」を実施しました。4月に実施した「スタディサプリ適性診断個別結果」なども利用しながら、同社の小山田衣里さんにご講演いただきました。

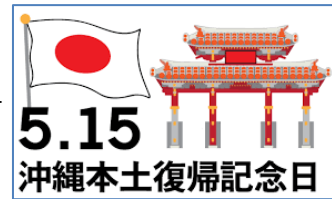
進路選択の方法として、「山登り型」と「川下り型」の2通りがあるご紹介いただきました。「山登り型」とは、明確な目標に向かって着実に進む方法で、「川下り型」とは、目の前のことに真剣に取り組み、その中で自分らしさを発見していく方法のことです。例えば、「将来就きたい仕事など、やりたいことを逆算して進学先を選ぶ」というのであれば「山登り型」になるでしょうし、「興味のある学問から選ぶ」とか「（語学などが得意なのであれば）得意なことや好きなことから選択する」というのであれば「川下り型」ということになるでしょう。どちらが正しいということではありませんので、今の段階で「将来就きたい仕事」などが決まっていないということであれば、目の前のことに真剣に取り組むことが大切になります。自分自身のことですので、「真剣に考え、いろいろと調べる習慣をつけておく」ことが大事になると思います。講師の小山田さんが話されていたように、自分なりに考えたり調べたりする過程で、「知っていること（知識）」が増えていくことで、「なぜ？」とか「どうしたら？」と考えたりすることが多くなり、結果として、「やりたいことも増えていく」ということですので、みなさんも意識的に取り組んでみましょう。



適性診断の結果については、まず「自分の結果としっかり向き合うこと」が大事になります。それぞれに向いている学問や職業などが示されたかと思いません。「自分の興味・関心がある学問や職業だった」という人もいれば、「自分にとってはあまり興味・関心のない学問や職業だった」という人もいることでしょう。あくまでも客観的な結果ですので、後者の場合には「そういうものか」と受け入れてみることも大切です。第三者の冷静な判断が意外と自分の適性を明確に示し、素直に受け入れて取り組むことで道が広がる可能性があります。もちろん、必ずしもそうとは言いきれませんが、「しっかり考えること」が大切になるということでしょう。

最後に、「未来に向けて」ということでお話をいただきました。「今がんばることで将来に役立つし、今がんばっていないと後悔につながるので、未来に向けてがんばってほしい」との言葉をいただきました。「10年後、社会人になってから求められる力は？」との問いがありましたが、「自ら課題を発見し、解決していく力」が特に重要で、人間にしかできない「発見、気づき」がますます重要になっていくとの見解がありました。AIが人間に代わってやっている仕事が増えている時代であれば、なおさら、人間にしかできない「発見、気づき」は大事になっていくことでしょう。そういった視点も備えていくよう、日々学習に励んでほしいものです。

■ 沖縄返還から 50 年



天皇陛下も 2 月の誕生日を前にした記者会見で触れていましたが、5 月 15 日で沖縄がアメリカから返還されて 50 年になりました。実は筆者の誕生日がその前日の 1972 年 5 月 14 日で、例年、「沖縄返還〇〇年」という報道があると、ちょうど筆者の年齢と同じになり、何となく感慨深く思うことがあります。

今年に入って正月から、新聞各紙でも「今年は沖縄返還から 50 年」ということで、特集記事が組まれていました。返還の前日である 1972 年 5 月 14 日の沖縄の様子を伝える記事も多くあり、「返還」に対する期待感、高揚感のようなものであふれていた印象で、筆者が生まれたころの沖縄の様子、日本国内の様子がよく分かりました。

余談ですが、この 1972 年 5 月 14 日生まれの有名人にバナナマンの日村勇紀さんがいます。筆者と誕生日が全く同じだと知ったのは、7~8 年ほど前だったと思いますが、このことを知ってから、日村さんに対していろいろな意味で親近感が湧いたり、誕生日以外の共通点（※血液型など）も分かったりするなど、一方的に親しみを覚えています。TBS 系列で放送されている「バナナマンのせっかくグルメ！！」という番組で、日村さんが日本全国の美味しいものや名物などを食べている様子を見ていて、羨（うらや）ましく思うこともしばしばです。

さて、上皇陛下が天皇として活動していたころ、「(1941 年) 12 月 8 日 (アジア太平洋戦争開戦の日) など、国民がアジア太平洋戦争 (第二次世界大戦) で忘れてはいけない日」をいくつか挙げていました。みなさんも、「1945 年 8 月 6 日や 1945 年 8 月 9 日はそれぞれ何が起こった日か？」と尋ねられれば、それぞれ「広島原爆の日」「長崎原爆の日」と答えられるのではないかと思います。それでは、「1945 年 3 月 26 日 (4 月 1 日) から 6 月 23 日までは何が起こっていたか？」と尋ねられて答えられる人はいるのでしょうか？ アジア太平洋戦争中、日本で唯一地上戦が繰り広げられたとされる「沖縄の地上戦」が始まったのが 1945 年 3 月 26 日で約 3 か月間続いたとされます。ちなみに、1945 年 4 月 1 日というのは、アメリカが沖縄に上陸した日であり、1945 年 6 月 23 日以降も沖縄の人たちのアメリカに対する抵抗は続いたという話もありますので、上記の「1945 年 3 月 26 日~6 月 23 日」が「沖縄の地上戦」が展開された期間と決めつけてしまっているのかは何とも言えません。

今年に入って、2 月下旬からロシアがウクライナに侵攻し、ウクライナ、ロシアともに甚大な数に上る犠牲者が出ています。街も次々に破壊されていき、「避難民」として逃げ惑う人たちの様子を見ていて、何とも言えない心境になりました。筆者も大学在学中にマレーシアやシンガポールを訪ねて、アジア太平洋戦争中の日本との信じがたい事実に触れたのをはじめ、ベトナム戦争などさまざまな形で戦争の現実、悲惨さについて直接訪ねて学び、「平和であることがいかに尊いか」を認識してきました。昨年度の探究活動発表会で、長崎の原爆や鹿児島県知覧町（※現南九州市）の特攻隊について取り上げ、「平和の大切さ」を訴えているグループがありましたが、「平和の尊さ」について言い続けることの大切さを「ロシアのウクライナ侵攻」をめぐって痛切に感じました。「沖縄返還 50 年」を機に、「戦争」や「平和」について関心を持ち、何らかの形で学ぼうとする人がさらに増えていくことを期待したいと思います。

文責：清水聖（進路指導主事）